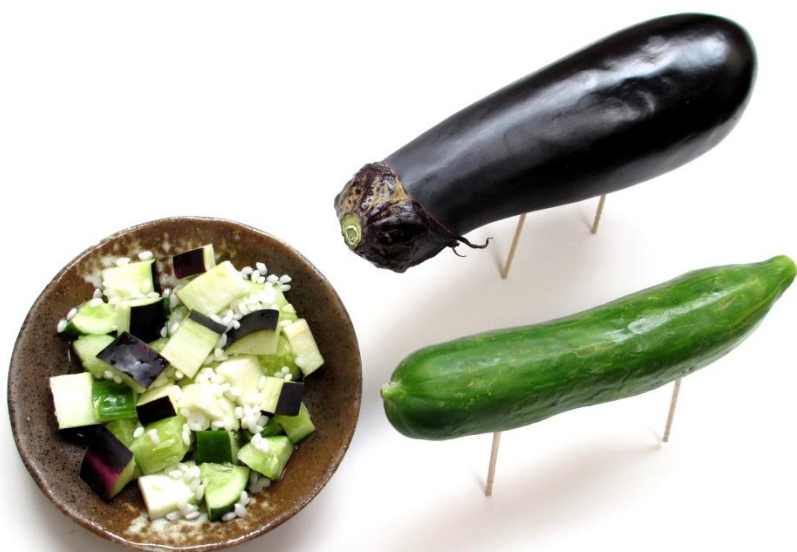


お盆の供養を始めよう

お盆のしおり

令和二年版



曹洞宗 陽光院

一、お盆^{ぼん}って何だろう？

お盆は亡き方々を自宅にお呼びし、親類が集まり、食事を供えご供養をする日本伝統の供養文化です。期間は七月十三日から十五日までの三日間で、地域によっては十六日までの四日間です。また、主に東京・横浜・千葉・静岡以外は八月に行います。

故人が四十九日法要を過ぎて初めて迎えるお盆を新盆^{しんぼん}と呼び、特に丁重に行う風習があります。

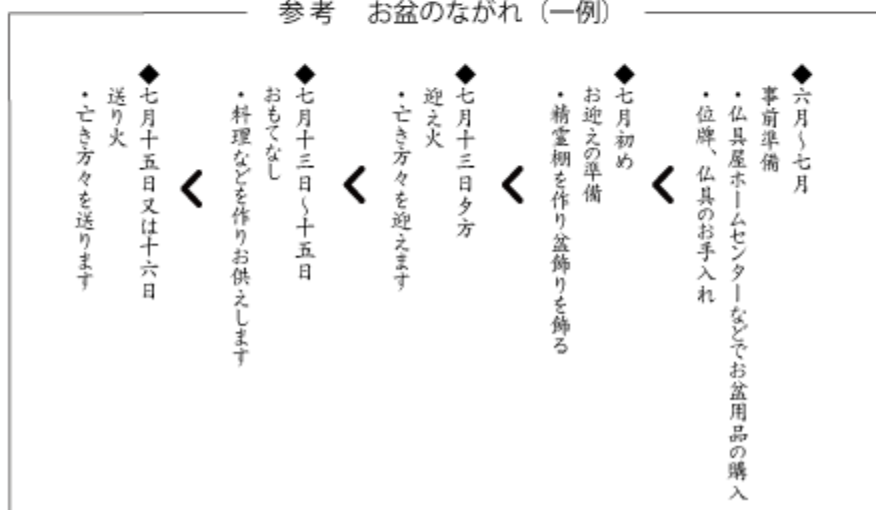
お盆の作法を知らない大変と感じてしまうものですが、決して難しい物ではありません。この冊子ではひとつひとつの作法をなるべく丁寧の説明しています。出来る範囲で構いません、亡き方々との再会の一助になれば幸いです。



目次

- 1 p …お盆とは
- 3 p …お盆の準備「精霊棚」
- 5 p …お盆の準備「盆飾り」
- 7 p …迎え火
- 8 p …亡き方々をお迎えしたら
- 9 p …棚経・送り火
- 10p…施食会・お盆が終わったら
- 11p…住職コラム

参考 お盆のながれ（一例）



二、お盆の準備

精霊棚を作る



ポイント：お盆を迎える前に作りましょう

「精霊棚」しやうりようだなは、亡き方々をお迎えし、お供物を供えたり、盆飾りを施すための大切な場所です。地域や住宅事情によって主に三種類の作り方があります。次をご参考下さい。

作り方1

- 一、 一〜二段の棚を仏壇のそばに設置します。
- 二、 棚の上にマコモ(P)や白い布などを敷きます。
- 三、 棚の四すみに葉のついた青竹を立て、しめ縄をはって悪い霊が来ないよう結界をつくり、ほおずきなどを垂らします。
- 四、 棚の奥にお位牌を安置し、手前に香炉や盆飾りなどを置きます。
- 五、 経机などを棚の前に置き、リンなどを置きます。



作り方2

都心の住宅事情では、なかなかスペースがなく本格的な物を作る事は少々難しいかもしれません。

その場合は、下図のように仏壇の前に机を置いて、その上にまこもや白い布を敷き、盆飾りやお供え物、香炉・リンなどを置きます。



作り方3

スペースの問題で仏壇の前に机を置くのも難しいようでしたら、シンプルに仏壇の中に盆飾りのみ施しましょう。その際は仏壇をきれいに整えておきましょう。

三、お盆の準備く 盆飾りを飾る



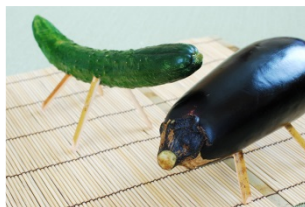
ポイント：お盆を迎える前に購入しておきましょう

次にはお盆ならではの盆飾りぼんかざりを飾ります。代表的な物を次に掲げました。それぞれに亡き人を想う意味が込められており、その背景を知る事で一層気持ちも入ります。

これらは主に仏具屋さん、ホームセンター、スーパーなどで売っています。

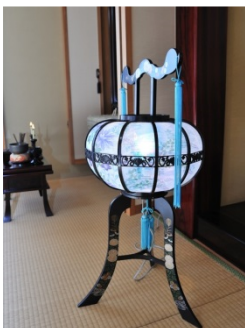
① キュウリの馬とナスの牛

キュウリは馬に見立てられ、「早く家に戻って欲しい」という祈りが込められています。ナスは牛に見立てられ、「景色を見ながらゆっくり帰って欲しい」「沢山のお土産を持ち帰って欲しい」という祈りが込められています。作り方は割り箸などを折ったものを、ヘタ部分が頭になるようバランスよく4本刺すだけです。昨今ではキュウリやナスは用いず、わらで模したものを使う事が多いようです。



② 盆提灯ぼんちようちん

亡き方々が迷わず帰って来る為の目印で、絵柄の入った提灯と白い提灯があります。絵柄の入った提灯は精霊棚の周りに置きます。



白い提灯は新盆の時のみにお飾りする物で、初めて帰ってくる故人が分かりやすいように軒先や窓際などに吊します。こちらは新盆が終りましたら処分します。

③ ほおずき

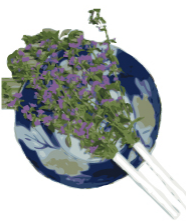
亡き方々は迎え火や提灯の灯りを頼りに戻ってくることから、ほおずきも提灯に見立てて精霊棚に飾ります。しめ縄を張って逆さに吊るすのが伝統的ですが、お供えのお花に添えてもよいでしょう。

④ まこもの敷物

まこものは薬用成分を含んだ植物で、お釈迦さまがまこものむしろに病人を寝かせて治療された仏話から、お盆の敷物にも使う様になったと言われているとされています。

⑤ みそはぎの花

紫色の小さな花を咲かせる「みそはぎ」はみそぎはぎ禊祓とも書かれ、清めのために使います。器に水を入れ、花を三〜五本束ねたものを供えます。適宜、このみそはぎで水をパツパツと振りかけて下さい。



四、迎え火 むかえび



ポイント：火の扱いには十分注意しましょう

迎え火は亡き方々が迷わずに帰って来られるよう目印として焚く火の事をいいます。お盆初日の十三日夕方迄にはこの迎え火を致します。

焚く場所は玄関や庭先など。マンションでしたらエントランス前などでしょうか。火の材料は麻おがらが一般的で、焙烙ほうろくと呼ばれる素焼きのお皿などの上で焚きます。

尚、お墓の前や少し離れた場所から導く際は、焚いた火を提灯などで自宅まで持ち帰りローソクに灯して亡き方々を導く事もあります。それぞれ火の扱いには十分注意致しましょう。



五、亡き人を迎えたらく お供え

ポイント：出来る範囲で行いましょう

亡き方々をお迎えしたら、滞在中は様々な食べ物をお供えします。次に伝統的な物を紹介します。

1、ごちそう・野菜や果物

お盆にはごちそうを供えよ。と、とあるお経に書いてあります。伝統的な霊前や夏野菜、果物などを供えます。また精進料理にこだわらず、故人の好物だった物を供えるのも良いでしょう。

2、茹でたソーメン

お土産を結ぶ紐代わりになるとも言われています。

3、水の子

生米、ナス、キュウリ等を細の目に切って少量の水に浸し、混ぜ合わせた物が水の子です。お呼びした御魂だけでなく餓鬼や無縁仏の供養をする祈りが込められています。

4、お団子

お迎えをしたら、疲れを癒やす甘いあんこの「迎えだんご」を、十四日はゆっくり食べられるおはぎ等の「落ち着き団子」。十五日はお土産用の白い団子の「送りだんご」を供えます。



六、棚経たなぎょう



ポイント：新盆の方はご親族を招いて行うことが多いです

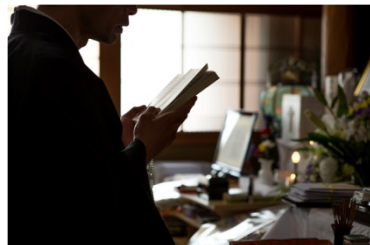
お盆中には、自宅に僧侶を呼びお盆の供養を丁重に施す風習があります。これを棚たな経ぎょうといいます。精霊棚きようだの前でお経きやうを唱えるので棚経たなきょうです。

近隣の新盆のご家庭、以前よりお伺いしているご家庭へご案内のハガキを六月中にお出ししております。その他の方でご希望の方は陽光院までご連絡下さい。

七、送り火おくりび

「送り火」はお迎えした方々を今度はお送りするために焚く火の事をいい、十五日の夕方に焚きます。この日にちに関しては、地方やご家庭によって異なる事が多く、昨今では十六日とも言われています。京都の大文字焼きなどは十六日の夕方です。

また、海や川に灯籠や供物などを流してご先祖さまお送りする「灯籠流し」等の風習もあります。



八、せじきえ施食会せがきえ（せじきえ施餓鬼会）



ポイント：新盆の方は特にご参列をおすすめ致します

お寺で行う盆供養法要をせじきえ施食会と言います。この法要は、がき餓鬼やむえんぶつ無縁仏に經と食べ物を施し生まれた大きな功德を亡き人に振り向ける特別なものです。陽光院では毎年、七月十日に行っています。新盆の方は特に丁重にご供養するためにもお申込下さいますようおすすめ致します。

九、お盆が終わったら

お盆を終えて役目を果たした白い提灯や牛馬は、以前は送り火の時に一緒に燃やしたり、川や海に流したりもしていましたが、環境の問題であまり行われなくなりました。とは言え家庭ごみで出すのはやはり良い気分がしません。お寺で無料にてお焚き上げを致しますのでご遠慮なくお持ち下さい。



住職コラム

お盆の風習は本当に地域でさまざまです。お盆に必ずサバを食べる地域もあれば、庭先に竹などで作った高燈籠たかとうろうを立てる地域もあります。同じ神奈川県でも東と西、海側と山側ではかなり異なる事があります。

このしおりは横浜市神奈川区で生まれ育った住職が見聞きし、体験した一般的と思われる風習を掲載させて頂きました。ですので、こうしなくてはいけないというものでは決してありません。しおりには載っていませんし、しおりと多少異なる風習がご家庭にはおありだと思っています。その場合はぜひそちらを選んで下さい。そのルーツはおそらくご先祖さまの生まれた地域の風習なのだと思います。そしてそれは、ご家族が大切に守り貫いてきた証です。それらを更に皆さまのお子様やお孫さんが代々受け継いでいくという事はとても素敵なことだと思います。

何はともあれ、受け継がれてきた伝統の形は私たちの心を調える力があります。亡き人との良き再会となる様切にお祈りしております。

合掌

大本山永平寺直末 曹洞宗圓明山 陽光院



〒221-0851 神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢中町11-9

電話 045-322-0565 FAX 045-322-1315

メール sotozen@yokoin.org WEB <http://yokoin.org>